

対話とコミュニティ

—日本語教育の専門性をつくるもの

中部ブロック 日本語教師養成・研修推進拠点整備事業
スタートアップシンポジウム

2024年3月23日(土)15:00~17:00

細川英雄(早稲田大学名誉教授)

本日のすすめ方

1. 自己紹介(細川)<15分>
2. 日本語教育の専門性とは何か:理念と方法(細川):<15分>
3. グループディスカッション(1) それぞれの活動とその理由<15分>
4. 全体会:それぞれのグループで出た意見を共有する。<5分>
5. 教育実践から実践研究へ(細川):<30分>
6. グループディスカッション(2) それぞれの実践研究とは?<20分>
7. 全体会:それぞれのグループで出た意見を共有する。<10分>
8. まとめ <10分>

ご質問・ご意見は、パドレットへ。

<https://padlet.com/sealulling/padlet-ywnf86dw2u6xxoz>

1. 日本語教育をめぐる新しい動き

- ▶ 「留学生受け入れ10万人計画」策定（1983）
 - ▶ 文部省日本語教育施策の推進に関する調査研究会（1985）
 - ▶ 日本語教育能力検定試験(第1回1988)
 - ▶ 文化庁日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議（2000）
 - ▶ 「日本語教育の参照枠」文化審議会国語分科会（2021・10）
-
- 言語に関する知識能力／日本語の教授に関する知識能力／日本語教育の背景をなす事項についての知識理解（文化庁「今後の日本語教育施策の推進に関する調査研究協力者会議」1999）
 - **日本語教育の制度整備とその意味**
 - －日本語教員に必要な基本的な知識・資質・能力の整備

2. 日本語教育の専門性とは何か

－日本語教育の専門性をめぐる議論

- ▶ 「自己研修型教師」とは－「唯一絶対の教授法への決別」、「独自の言語教育観」から「アプローチ、テクニックを検討」する姿勢（岡崎・岡崎1997）
- ▶ 一般的・静態的専門性から個別的動態的専門性へ－知識・資質・能力を「準拠枠」ではなく「参照枠」として－専門性の三位一体＝理念(教育観)・方法・フィールド(舘岡編2021)

https://www.youtube.com/watch?v=TRasnL-W_d0

- ▶ 閉じられた専門性から開かれた専門性へ(細川2022)

2.日本語教育の専門性とは何か

—日本語教育の教育観とは何か

- ▶ 1) 日本語を使うための基礎知識を説明し、その次に、具体的な場面での使い方を教え練習を行う。実際に社会に出て使えるような応用トレーニングをする。基本的に日本語だけの直接法を用い、評価は、教科書の語彙・文法・音声等の項目により教師が行う。
- ▶ 2) 学習者が中心となって、日本人にインタビューするなど、教室から出て他者とのインターアクション（やりとり）を積極的に行うことで、日本語によるコミュニケーション能力を向上させる。評価は、語彙・文法・音声等のチェックを総合的に教師が行う。
- ▶ 3) 学習者の興味・関心に即した何かのテーマ（たとえば、社会問題等）にもとづきその内容探究を行う。学習者の思考と表現に重きを置き、学習者の他者理解や相互文化(Interculture)の意識を高める。評価は、学習者の自己評価及び学習者間の相互評価による。

2.日本語教育の専門性とは何か

–日本語教育の教育観とは何か

▶グループ・ディスカッション（1）20分

- ① 1) 2) 3) それぞれの教育スタイルを支える教育観はどのようなものですか。
- ② あなたは、どのスタイルを選択しますか。その理由は？

2.日本語教育の専門性とは何か

—日本語教育の教育観とは何か

- ◆教育内容「何を」の固定化、learning to know(知識)、構造言語学的、教師主導、パターン・プラクティス、知識化(qualification ガート・ビースタ(2016)):1950-60年代 →1)
- ◆教育方法「どのように」の効率化、learning to do(方法)、応用言語学的、学習者中心、コミュニカティブ・アプローチ、社会化(socialization):1970-80年代 →2)
- ◆教育関係「なぜ」の問い直し、learning to be(あり方)、社会構成主義的、学習者主体、アクション・アプローチ、主体化(subjectification):1990年代以降 →3)

3. 専門性の背景にある理念とは何か

— 正解を所有しない教師のあり方

- ▶ 新しい教育とその理念のあり方とは？— 閉じられた専門性から、開かれた専門性へ
- ▶ 教科内容「何を」の固定化、教育方法の効率化への批判
- ▶ 言語そのものへの関心から言語を使う人間への関心へ
- ▶ 共生社会のあり方— 管理／被管理関係から対等関係へ— 正解を目的としない教育へ— 教える／教えられる（教わる）関係をどう乗り越えるか（マリオッティ・市嶋2021）
- ▶ 自分にしかできない実践をどのようにめざすのか— 教師の専門性へ— 正解を目的とした作業は、AIの仕事

3. 専門性の背景にある理念とは何か — 正解を所有しない教師のあり方

- ▶ 学び手も教師も社会におけることばの使用者
social agent (社会的存在) CEFR2001
- ▶ ことばの教育とは、ことばの使用による個の社会との関係形成について立ち会うこと
- ▶ **日本語教育とは日本語を教えることではない!?**— 学習者のことばの活動の活性化を支える場(コミュニティ)の形成— コミュニティでの対話の意味— 「何を」「どのように」は学び手が決める

4. 教師の専門性と教育実践活動

—自分にしかできない実践をめざす

▶ 教師の仕事の3ポイント(佐藤学2012)

- ▶ D〈デザイン〉— **オリジナリティ**のある実践活動をデザインする
- ▶ F〈ファシリテーション〉— 学びの共同体を形成する
- ▶ R〈リフレクション〉— Dを振り返り、新しいDを創出する

▶ **自分にしかできない実践をめざす**—「私はどのような教育実践をめざすのか」という問いを持つ

4. 教師の専門性と教育実践活動

— 実践研究は何をめざすか

- ▶ **実践研究とは？**—自分の実践活動DFRを言語化して公開・共有する(細川・三代2014)
- ▶ **例：大学院受験生クラスの実践**
- ▶ 過去問の検討、研究計画書の書き方—「何のための大学院か」の問いの不在
- ▶ クラス対話—大学院に入って何をするのか—自分にとって研究とは何か—学び手自身の興味・関心に沿った学習環境づくりのはじまり
- ▶ 教師の課題：このクラスのデザインとは何か—コミュニティにおける対話の意味(『研究計画書デザイン』)

4. 教師の専門性と教育実践活動 －実践研究を行うことの意味

▶ グループ・ディスカッション (2) 20分

- ① このような固有の実践研究を行うことについて、あなたはどうか考えるか。

4. 教師の専門性と教育実践活動

ーオリジナリティの公開がなぜ専門性につながるのか

- ▶ それぞれの専門性は個別的・動的である(舘岡編 2021)。
- ▶ オリジナリティの公開によって、その理念・方法・フィールドの循環が可視化する。➡実践をひらく。
- ▶ その個人・組織の専門性が明示化される。
- ▶ 実践活動の充実→それぞれの自分軸が試される
- ▶ 教師の専門性は、教育実践の中で磨かれる

4. 教師の専門性と教育実践活動

— 実践研究は、開かれた専門性への旅

- ▶ 開かれた専門性の体得には、実践DFRの循環を実践研究として共有・公開すること。
- ▶ 自分の実践DFRを同僚と共有しているか
- ▶ 自分の実践DFRを外部へ公開しているか
- ▶ 組織(コミュニティ)は、教師一人ひとりの実践DFRをどのように保障・奨励しているか—
個人と組織の対話の活性化
- ▶ 実践研究は、開かれた専門性への旅

参考文献など

- ▶ 岡崎 敏雄，岡崎 眸『日本語教育の実習: 理論と実践』(アルク1997)
- ▶ マルチェッラ・マリオッティ、市嶋典子『「活動型」日本語クラスの実践—教える・教わる関係からの解放』(スリーエーネットワーク2022) 細川英雄監修
- ▶ ガート・ビースタ『よい教育とは何か』(白澤社／現代書館2016)
- ▶ 佐藤学『学校を改革する—学びの共同体の構想と実践』(岩波ブックレット2012)
- ▶ 舘岡洋子(編)『日本語教師の専門性を考える』(ココ出版2021)
- ▶ 細川英雄『日本語教育は何をめざすか』(明石書店2002)
- ▶ 細川英雄『対話することばの市民＝CEFRの思想から言語教育の未来へ』(ココ出版2022)
- ▶ 細川英雄・三代純平『実践研究は何をめざすか』(ココ出版2014)
- ▶ CHEERS「充実した実践活動のつくり方」発見編・デザイン編

<https://www.facebook.com/nihongo.teachers.nagoya>